

大学共同利用機関法人自然科学研究機構  
経営協議会（第59回）議事要旨

1. 日 時 令和元年6月24日（月）10：40～13：00
2. 場 所 自然科学研究機構事務局会議室
3. 出席者 小森議長、北城委員、高坂委員、斎藤委員、澤岡委員、高橋委員、高柳委員、中村委員、平野委員、徳田委員、金子委員、井本委員、常田委員、竹入委員、阿形委員、鍋倉委員、川合委員  
(陪席者)  
二宮監事、竹俣監事  
(事務担当者)  
岡田総務課長、中野企画連携課長、鈴木財務課長、宮内施設企画室長、国立天文台 笹川事務部長、核融合科学研究所 西山管理部長、岡崎統合事務センター 棚木事務センター長及び三好財務部長 他  
(研究成果発表者)  
深川 美里 教授（国立天文台）

4. 配付資料

- 1-1 大学共同利用機関法人自然科学研究機構 役員・副機構長 名簿
- 1-2 大学共同利用機関法人自然科学研究機構 経営協議会委員名簿
- 2 経営協議会（第58回）議事要旨（案）
- 3 平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）
- 4 国立天文台Bプロジェクトの名称変更について
- 5-1 平成30事業年度決算（案）のポイント
- 5-2 財務諸表（案）
- 5-3 事業報告書（案）
- 5-4 決算報告書（案）
- 5-5 監事監査報告
- 5-6 独立監査人の監査報告書
- 6-1 令和2年度概算要求 機能強化経費事項一覧（案）
- 6-2 令和2年度 施設整備費概算要求一覧
- 7 大学共同利用機関法人における会計監査人の選任について

5. 議事等

議事に先立ち、事務局から定足数の確認があった。引き続き、小森議長から資料1-1及び資料1-2に基づき、令和元年度の役員等の体制及び経営協議会の委員について報告があり、4月に所長に就任した阿形委員（基礎生物学研究所長）及び鍋倉委員（生理学研究所長）から挨拶があった。

1) 前回議事要旨（案）について

前回経営協議会（第58回）の議事要旨（案）（資料2）が了承された。

## 2) 平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

金子委員から、資料3に基づき、平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書について説明があり、審議の結果、議論を踏まえた修正を行った上で決定することが了承された。

(主な意見等は以下のとおり)

- 組織運営や研究組織の改編など社会情勢に応じて、よく対応していると感じているが、自己評価はⅢでよいのか。
- 年度計画を超えたかどうかという点で判断すると、計画の中できちんと対応したのでⅢと判断している。なお、来年度実施される中間評価においては、研究組織の改編などについて、もっとアピールすることとしたい。
- 「全体的な状況」のアストロバイオロジーセンターに関する記述について、表現がおかしいと思われる部分があるが、その部分の記載は正しいのか。
- 記載内容について、再検討させていただきたい。
- 重要な科学論文の生産性を表す指標「Nature Index」について、国内の順位が昨年の32位から今年は14位とかなり上がっているが、どのような点が良くて上がったのか。また、インパクトの高い論文数による日本の研究機関ランキングについて、総合トップ20機関中19位となっているが、これはどの程度のものなのか。
- 「Nature Index」において評価の対象となる重要な論文誌の見直しが行われたことに伴い、順位が上昇したものと考えている。また、インパクトの高い論文数による日本の研究機関ランキングについては、トップ1%論文数によるものなので、研究機関の規模の違いも関係している。割合を用いる指標もあるので、どのような主張をしていくかに応じて選んでいきたい。
- 芽になる研究を行うことが大学の役目のひとつであり、これらの指標のみで評価することが良いとは考えていない。
- 基礎研究分野は論文数が多ければいいものではないため、論文数で評価することは適切ではないが、どのような形で評価することが良いか、意見を出していかないと社会では理解されない。
- 優秀な若手研究者を増やす手段として、クロスアポイントメントなどを活用することとされているが機能しているのか。また、女性研究者について、中期計画では目標値を明記しているが、今回の実績報告では数値を記載していないのはなぜか。
- 機構ではクロスアポイントメントによりシニアな研究者を雇用することが若手研究者への刺激になると考えている。また、女性研究者の数値については、中期計画に記載し、年度計画には記載していない。今回の実績報告は年度計画に対する実績報告であるため、女性研究者の数値について記載していない。女性研究者数については、毎月の役員会に報告し、常に把握しており、目標の達成に向けて努力している。

## 3) 国立天文台の組織改編について

常田委員から、資料4に基づき、国立天文台の組織改編について説明があり、

審議の結果、案（資料4）のとおり了承された。

4) 平成30年度決算について

徳田委員から、資料5-1から資料5-6に基づき、平成30年度決算について説明があり、審議の結果、案（資料5-1から資料5-4）のとおり了承された。

5) 令和2年度概算要求について

徳田委員から、資料6-1及び資料6-2に基づき、令和2年度概算要求について説明があり、審議の結果、案（資料6-1及び資料6-2）のとおり了承された。

（主な意見等は以下のとおり）

- 核融合科学研究所では電力量が非常に大きいと思うが、どのように業者選定しているのか。
- 毎年入札により契約業者を決めている。
- 動物実験棟の改修が終了した後の運営経費について、概算要求を行っているのか。
- 生理学研究所の「遺伝子改変モデル動物の表現型解析を飛躍的に高める先端技術の開発と共同利用・共同研究を推進する為の研究環境基盤の構築」の中で要求している。

6) 令和元年度会計監査人の選任について

徳田委員から、資料7に基づき、令和元年度会計監査人の選任について報告があった。

7) 機構の最近の研究について

本機構の最近の研究成果について、国立天文台の深川 美里 教授から「宇宙における惑星系の誕生」と題して発表が行われ、意見交換があった。

以上